



Title	日本語学習者の「掛かる：掛ける」の使用傾向：I-JASの用例をもとに
Author(s)	新谷, 知佳
Citation	現代日本語研究. 2025, 16, p. 1-18
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/102437
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

日本語学習者の「掛かる：掛ける」の使用傾向

—I-JASの用例をもとに—

Usage of “kakaru / kakeru” by Learners of Japanese:

Based on I-JAS Data

新谷 知佳

SHINTANI Chika

キーワード：自他対応動詞，使用傾向，日本語学習者，コーパス，I-JAS

要 旨

本稿は、自他対応動詞の一例として「掛かる：掛ける」を取り上げ、『多言語母語の日本語学習者横断コーパス：I-JAS』の用例をもとに、日本語学習者に特有の「掛かる」と「掛ける」の使用傾向を示すものである。「掛かる」と「掛ける」が持つ意味のうち、自他対応の関係にある12の意味に着目し、それぞれの意味におけるコロケーションについて、日本語学習者と日本語母語話者の使用傾向を比較した。その結果、学習者は特定の意味に偏って使用している傾向が見られ、一部の意味ではコロケーションや自他の選択が日本語母語話者と異なっていることが確認された。以上の考察を通じて、日本語学習者における自他対応動詞の自他の使用傾向を把握するための分析手法の確立に向けた足がかりを提示する。

1. はじめに

本稿は、日本語学習者の自他対応動詞における自他の使用傾向を明らかにするための分析手法の確立を目指し、自他対応動詞の一つである「掛かる：掛ける」を取り上げて、試論的な検討を行うものである。多言語の大規模な学習者コーパスであり、同一場面における母語話者のデータも含む『多言語母語の日本語学習者横断コーパス：I-JAS』（以下、I-JAS）を用いて用例を収集し、日本

語母語話者の使用傾向との比較を行いながら、日本語学習者の使用傾向を示す。I-JAS には、日本語学習者と日本語母語話者のデータが同数ではないという問題はあるものの、同一場面における日本語学習者と日本語母語話者の使用傾向を見ることができるという点で有用であると判断し、今回の分析に用いることとした。

本稿における自他対応動詞は、(1)に示す定義すべてを満たす自動詞および他動詞からなる動詞対を指す。(1)は、奥津(1967)および早津(1987)に基づき、定義されたものである。

- (1) ①自動詞と他動詞が形態的に共通する部分をもつもの
 - ②自動詞と他動詞の表す意味に同一性が見られるもの
 - ③自動詞文のガ格が他動詞文の動作の対象を表すヲ格として現れるもの (新谷 2022:74)
- (2) a. ハンガーにコートが掛かる。
 b. ハンガーにコートを掛ける。

一例として(2a)に「掛かる」、(2b)に「掛ける」の作例を示した。「kak-」という形態的に共通する部分をもち、コートが「ぶら下がる」ことを表すという点で意味に同一性が見られ、自動詞文のガ格が他動詞文の動作の対象を表すヲ格に現れており、(2ab)は(1)の定義を満たしていると言える。

自他対応動詞は、これまで様々な観点から盛んに議論されてきたが、今なお日本語教育の現場では、難しい文法項目の一つとして挙げられることが多い。日本語教育では、初級段階で複数の自他対応動詞をリスト化し、一括りにして扱うが、実際には各自他対応動詞における自他の使い分けは均一ではない。そのため、母語話者が自動詞を選択する場面で学習者が他動詞を選択すると、文法的に正しい文であったとしても不自然に感じられることがある。こうした問題を踏まえ、本稿では、「掛かる」「掛ける」の用例を取り上げる。

本稿は次の構成をとる。2節で分析対象とする「掛かる：掛ける」の特徴を整理し、3節で用例の収集方法について述べる。4節で各意味における使用傾向を示し、5節にてまとめを述べる。

2. 「掛かる：掛ける」について

2. 1. なぜ「掛かる：掛ける」なのか

日本語の基本的な動詞の意味を用例とともに示した辞典である小泉他編（1989）によると、「掛かる」には 19 の意味があり、「掛ける」には 18 の意味がある。これらの多様な意味の中には、前節で示した (2ab) のように、自他対応の関係にある意味も多く見られる。小泉他編（1989）に提示されている「掛かる」と「掛ける」の意味のうち、自他対応の関係にある 12 の意味に通し番号を振り、整理して、表 1 に示す。

表 1：「掛かる：掛ける」の表す意味のうち自他対応の関係にあるもの

（小泉他編（1989）をもとに作成）

意味	掛かる	掛ける
01	物が高い所に留められて、そこからぶら下がる。垂れ下がる。	物を高い所に留めて、そこからぶら下げる。
02	なべ・やかんなどがコンロなどの上に置かれて火に当てられている。	なべ・やかん、または料理などをコンロなどの上に置いて火にあてる。
03	何かをまたいで両端が支えられ、空中に固定されている。	何かをまたいで両端を支え、空中に固定する。
04	ある物の表面を覆う。または、液体や粉末などがある場所に付着する。	ある物を別の物の上にかぶせる。または、液体や粉末などがある場所に付着させる。
05	ひも・縄などが何かに巻き付く。	ひも・縄などを何かに巻き付ける。
06	手や足などが何かに届く。	物の端を他の物の上に置いたり、もたせたり、届かせたりする。
07	何かに重み・力・負担が加えられる。	何かに重み・力・負担を加える。
08	獲物がわな・網・針などで捕らえられたり、人が策略にはめられる。または、暗示や薬物などの作用を受ける。	わな・網・針などで獲物を捕らえたり、人を策略にはめたりする。または、暗示や薬物などの作用を受けさせる。
09	鍵・ボタン・機械などの機能が働く。	鍵・ボタン・機械などの機能を働かせる。
10	ある事柄が一定の手続きに任される。	ある事柄を一定の手続きにゆだねる。
11	時間・手間・費用などが費やされる。	ある物事に時間・手間・費用などを費やす。
12	疑念・迷惑・期待・作用などが何かに及ぶ。	疑惑・迷惑・期待・作用・働きかけなどを相手に及ぼす。

また、I-JAS における使用頻度を見ると、「掛かる」「掛ける」はともに自他対応動詞の中で上位 5 位以内に入る高頻度の動詞である。同様に頻度の高い自他対応動詞として、「出る」「出す」や「付く」「付ける」があるが、「出る」「出

す」は意志性を伴う自動詞の用法を考慮する必要があり、「付く」「付ける」には「掛かる」「掛ける」ほどの多義性は見られない。

このように、「掛かる」「掛ける」は、意志性を伴う自動詞の用法を持たないという点で扱いやすく、自他対応動詞の中でも多義的でかつ使用頻度が高い自他対応動詞である。以上の理由から、本稿では「掛かる」と「掛ける」を分析対象として取り上げることとした。

2. 2. 「掛かる：掛ける」の用例の種類

(2a)の「掛かる」は、表1の意味01「物が高い所に留められて、そこからぶら下がる。垂れ下がる。」(小泉他編 1989: 120)に該当し、(2b)の「掛ける」は同じく意味01の「物を高い所に留めて、そこからぶら下げる。」(小泉他編 1989: 127)に該当する。このように、(2ab)は意味の上で自他対応の関係にある。

一方、(3)のように、自他対応の関係にある意味を持たない用例も存在する。尚、これ以後提示する用例はすべてI-JASから収集したものであり、サンプルID、データセット、連番、発話番号、被験者の母語を示してある。

(3) 山が、山に雲が掛かってます

(JJJ26-D_第一次データ_2510_00220_日本語)

(3)は、小泉他編(1989)に「掛かる」の意味として挙げられている「空や山などを背景にして月・雲・虹などが出ている」(小泉他編 1989: 120)にあたるが、この場合、対応する他動詞を持たない。

また、「掛かる：掛ける」は、複数の表記を持つ自他対応動詞でもあり、意味によって「掛」のほか、「架」や「懸」、さらにはひらがな表記などの使い分けが見られる。例えば、表1の意味01であれば、「掛」やひらがなで表され、意味03であればその多くが「架」で表される。ただし、この使い分けは明確なものではなく、文脈や使用者の意図によって異なる表記が選択される。そのため、本稿の表記においては、語彙素を指す際は、「掛かる」「掛ける」を用い、用例掲出の際にはコーパスで用いられている表記をそのまま用いることとした。

加えて、「掛かる：掛ける」は、(4)のように慣用句の一部や(5)のように複合動詞の一部として用いられることもある。

- (4) 二人は驚き、あわてて中身を確認すると腕によりをかけたサンドイッチはみごとに食べられてしまっていました。

(JJJ33-SW1_第二次データ_1100_00040_日本語)

- (5) その時警察が、ちょうど通りかかって、っとーケンを、不審者だと、思われました (CCT31-ST2_第三次データ_1340_00070_中国語(台湾))

このように、「掛かる：掛ける」は、様々な意味を持つだけでなく、慣用句や複合動詞など様々な表現で用いられる動詞である。そのため、用例を収集した後、詳細な分析に入る前に、用例の整理を行う必要がある。そこで次節では、用例の収集方法とその整理手順について具体的に示す。

3. 用例の収集と整理

用例は、I-JAS を用い、コーパス検索アプリケーション『中納言』の語彙素検索によって集めた。I-JAS には、学習者（日本語母語話者を含む）である被験者の発話と調査者の発話が含まれているが、話者を「学習者（日本語母語話者を含む）の発話のみ」に設定し、検索を行った。そして、検索対象とするデータは、すべてのデータセット、言語環境、調査地およびタスクとした。その結果、「掛かる」の用例は 1,231 件、「掛ける」の用例は 846 件得られた。これらの用例に対して、次の 2 つの作業を実施した。

まず、1 つ目の作業として、自他対応の関係にある 12 の意味（表 1）、対応を持たない意味、慣用句、複合動詞、固有名詞、判断不可に分類した。自他の使用傾向を捉えるにあたり、対応を持たない意味、慣用句、複合動詞、固有名詞、判断不可に分類される用例を除外するためである。判断不可には、語彙の選択の誤りが見られる用例など意味の分類が困難な用例が含まれる。(6)に用例を示す。

(6) あー、電気は一、あー、電気はかけています

(IID31-D_第四次データ_2170_00190_インドネシア語)

「電気はついています」を意図していたと予想されるが、「掛ける」にはこのような意味がないため、判断不可に分類した。

次に、2 つ目の作業として、ガ格とヲ格の誤用が見られる用例のラベル付けを行った。(7)(8)のような用例である。(7)はガ、(8)はヲの誤用である。

(7) それからー、木のそばんーに、ある人はー、電話を一かかっています

(CCS23-D_第五次データ_5320_00510_中国語 (台湾))

(8) あの一時間がかけると思います

(EAU32-I_第二次データ_37430_01400_英語)

これらの誤用は、(6)の用例とは異なり、「掛かる」「掛ける」の意味による分類は可能であるため、意味による分類を行った上で、「ガヲ誤用」というラベルを付けることとした。

以上の作業によって得られた、各意味における使用頻度およびそれぞれの話者における各意味の使用の割合を示したものが表 2 である。日本語学習者のガヲ誤用の数値は、日本語学習者の「計」に含まれるガヲ誤用の件数を示している。

表 2 の数値をもとに、日本語学習者と日本語母語話者の使用頻度を比較すると、日本語学習者は意味 11 での使用が全体の 57.8%と極端に多く、次いで意味 12 が 26.7%、意味 01 が 5.9%と、この 3 つの意味に使用が集中していることがわかる。また、自他の使用比率についても比較すると、意味 11 では、日本語学習者の「掛かる」の使用比率が 98.4% (1068 件中 1051 件) で、日本語母語話者の 87.5% (32 件中 28 件) よりも高く、意味 01 では「掛ける」の使用比率が 78.0% (109 件中 85 件) で、日本語母語話者の 38.9% (18 件中 7 件) よりも高い。

表 2 : 「掛かる：掛ける」の各意味における使用頻度

	日本語学習者				日本語母語話者		
	掛かる	掛ける	計	ガヲ誤用	掛かる	掛ける	計
意味 01	24	85	109 (5.9%)	32	11	7	18 (7.9%)
意味 02	0	4	4 (0.2%)	1	4	10	14 (6.1%)
意味 03	2	3	5 (0.3%)	2	15	0	15 (6.6%)
意味 04	1	25	26 (1.4%)	0	4	7	11 (4.8%)
意味 05	0	10	10 (0.5%)	0	0	3	3 (1.3%)
意味 06	3	25	28 (1.5%)	2	0	18	18 (7.9%)
意味 07	0	2	2 (0.1%)	0	3	0	3 (1.3%)
意味 09	3	11	14 (0.8%)	0	1	1	2 (0.9%)
意味 11	1,051	17	1,068 (57.8%)	33	28	4	32 (14.0%)
意味 12	20	474	494 (26.7%)	11	15	69	84 (36.8%)
慣用句	9	2	11 (0.6%)	-	5	5	10 (4.4%)
複合動詞	1	14	15 (0.8%)	-	1	3	4 (1.8%)
固有名詞	2	9	11 (0.6%)	-	0	0	0 (0.0%)
対応なし	11	11	22 (1.2%)	-	10	2	12 (5.3%)
判断不可	7	23	30 (1.6%)	-	0	2	2 (0.9%)
計	1,134	715	1,849 (100%)	-	97	131	228 (100%)

このことから、日本語母語話者に比べて、日本語学習者は使用する意味に偏りが見られ、その中で選択する自他にも偏りがあると考えられる。そこで次節では、各意味におけるコロケーションをもとに分析を行い、このような偏りが生じた要因を探る。

4. 各意味における使用傾向

各意味における使用傾向を示すため、「掛かる：掛ける」の変化の対象となる名詞句を取り上げ、コロケーションとして整理した。取り上げる名詞句は、「ガ／ヲ」「ハ」「モ」を伴って文中に現れているもの、あるいは無助詞で現れているものとした。そのため、前後の文脈から変化の対象が推測でき、意味による分類が可能な場合でも、文中に名詞句が現れていない場合は、「出現なし」として扱った。また、自他それぞれの用例が1件以下の場合は、すべて「その他」としてまとめてカウントした。意味ごとに、I-JAS の用例を示した後、コロケーションを表の形で提示し、日本語学習者と日本語母語話者、自動詞と他動詞という2つの観点から使用傾向を示す。

4. 1. 意味 01

意味 01 は、(9) (10) のような用例における「掛かる：掛ける」が該当する。

(9) えー、い、この、壁に、えー絵が、掛かっています

(CCH03-D_第四次データ_3070_00420_中国語)

(10) ここに、絵が掛けてあります

(SES14-D_第三次データ_2900_00270_スペイン語)

意味 01 におけるコロケーションを表 3 に示す。本稿では、「服」と「洋服」のように同じものを指していると思われる場合でも、異なる名詞句として出現している限りは、それぞれ行を分けて示している。

表 3：意味 01 におけるコロケーション

	日本語学習者			日本語母語話者		
	掛かる	掛ける	計	掛かる	掛ける	計
絵	14	27	41	2	3	5
コート	2	20	22	8	0	8
服	2	2	4	0	1	1
洋服	0	0	0	0	2	2
その他	0	3	3	0	1	1
出現なし	3	4	7	1	0	1
ガブ誤用	3	29	32	0	0	0
計	24	85	109	11	7	18

表 3 より、同じ意味で用いられている「掛かる：掛ける」であっても、コロケーションによって使用傾向が異なっていることが読み取れる。たとえば、「絵」では、日本語学習者と日本語母語話者の自他の使用比率は同程度であるのに対し、「コート／服／洋服」では、日本語学習者の「掛ける」の使用が多い。

この意味 01 は、「絵描写」というタスクの用例で多く見られた。「絵描写」は、図 1 のようなイラストを被験者（学習者）に見せ、被験者が気が付いたものを口頭で述べるというタスクである。調査者によるあいづちや、他の部分にも注意を促すような発話が行われるが、基本的には被験者の気づきに基づく自主的な発話である。

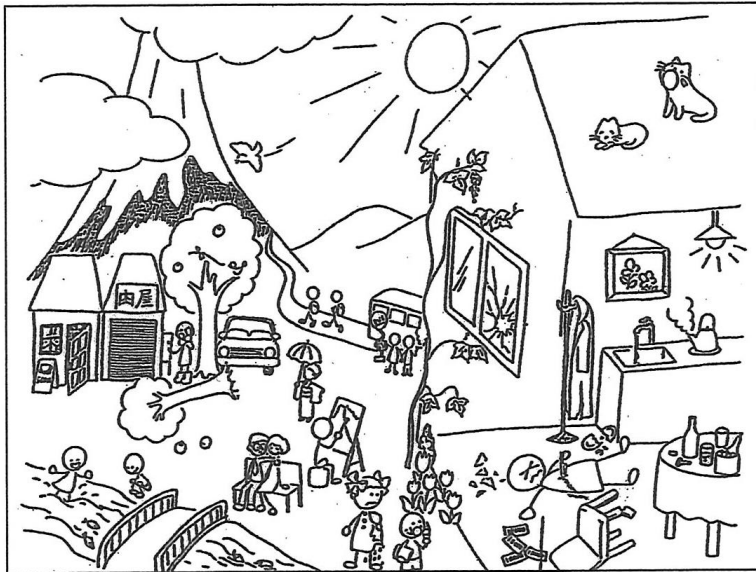


図 1：「絵描写」のイラスト（迫田・石川・李編 2020：40）

意味 01 の「コート／服／洋服」の描写では、日本語学習者の「掛ける」の使用が特に多いが、この要因として、日本語学習者は、「コート」のように、物を掛けるという行為が直接的に想起される場合、意図的な動作を表現する「掛ける」の方が適切だと認識している可能性が考えられる。このことは、「絵」の描写においては、日本語学習者と日本語母語話者の使用傾向に差が見られないことからもうかがえる。一度設置された後はずっと壁にある「絵」は意志的動作を含んで表現しにくくなるのだと推測される。

意味 01 は、日本語学習者が「掛かる：掛ける」を使う中で、特に偏って現れた意味の一つであり、この意味において、日本語学習者は「掛ける」の使用が多いのに対し、日本語母語話者は「掛かる」の使用が多いという異なる傾向が見られた。意味 01 での使用傾向には、各コロケーションにおける日本語母語話者と日本語学習者の自他の選択が異なっていることが関わっていると考えられる。

4. 2. 意味 02

意味 02 は、(11) (12) のような用例における「掛かる：掛ける」が該当する。

(11) えー、やかんが掛かっていて、お湯が沸いています

(JJJ57-D_第一次データ_790_00060_日本語)

(12) と、えーと家には電気がついていて、キッチンには、えーとやかんに、
やかんを掛けて、えー煙がモクモクと出てる、感じですかね

(JJJ33-D_第二次データ_1720_00120_日本語)

表4：意味02におけるコロケーション

	日本語学習者			日本語母語話者		
	掛かる	掛ける	計	掛かる	掛ける	計
やかん	0	1	1	1	6	7
火	0	0	0	0	3	3
その他	0	2	2	2	0	2
出現なし	0	0	0	0	1	1
ガヲ誤用	0	1	1	1	0	1
計	0	4	4	4	10	14

意味02では、日本語学習者と日本語母語話者の両方が他動詞を多く使っており、使用傾向は一致している。しかし、日本語母語話者の用例は14件あるのに対し、日本語学習者は4件と少なく、意味02は日本語学習者にとってあまり馴染みのない表現であると推測される。このことは、日本語学習者は図1にある「やかん」を描写しないというわけではなく、「お湯が沸いている」のような他の表現による描写が多く見られたことからもうかがえる。以上より、日本語学習者と日本語母語話者の使用傾向が異なる要因として、他の表現の使用も関わっていると考えられる。

4. 3. 意味03

意味03は、(13)(14)のような用例における「掛かる：掛ける」が該当する。

(13) えーと、その前に川が流れていて橋が架かっています

(JJJ49-D_第二次データ_4400_00360_日本語)

(14) んでー、あの一、ちょっと、小さな橋も、あの一、川の上に、あのかけてあります (HHG02-D_第三次データ_2740_00150_ハンガリー語)

表 5：意味 03 におけるコロケーション

	日本語学習者			日本語母語話者		
	掛かる	掛ける	計	掛かる	掛ける	計
橋	2	1	3	15	0	15
ガフ誤用	0	2	2	0	0	0
計	2	3	5	15	0	15

意味 03 も、日本語学習者の用例が少なかった意味の一つである。また、日本語母語話者の用例がすべて自動詞の用例であるのに対し、日本語学習者の用例には他動詞の用例も含まれるという傾向が見られる。I-JAS における意味 03 のコロケーションは「橋」に限定されるが、ここでも、日本語学習者は「橋がある」のような他の表現を用いて描写する傾向が見られた。

4. 4. 意味 04

意味 04 は、(15) (16) のような用例における「掛かる：掛ける」が該当する。

(15) ミートソースのような物がかかってて、そこになんかもやしが混ざ
ってる (JJJ51-I_第二次データ_29890_01980_日本語)

(16) 要するに醤油をかけて食べるような感覚ですね
(JJJ49-I_第二次データ_19200_01040_日本語)

表 6：意味 04 におけるコロケーション

	日本語学習者			日本語母語話者		
	掛かる	掛ける	計	掛かる	掛ける	計
水	0	4	4	0	0	0
ソース	0	2	2	0	0	0
醤油	0	2	2	0	1	1
その他	0	4	4	3	5	8
出現なし	1	13	14	1	1	2
計	1	25	26	4	7	11

意味 04 における自動詞と他動詞の使用傾向は、日本語学習者、日本語母語話者の両方で一致しており、いずれも他動詞の使用が多い傾向にある。

意味 04 の用例は、母語話者の 1 件を除きすべて「対話」というタスクで現れた用例であった。「対話」は 30 分程度の会話を行うタスクで、調査者が質問を

繰り返しながら対話が進められ、対話をリードする調査者により、適宜話題の転換が行われる。この話題の中に、「学習者の出身地について」が含まれており、複数の用例において、出身地の料理や食べ物や有名な産物を取り上げられていた。実際、日本語学習者、日本語母語話者の「その他」には、「レモン」「シロップ」などが含まれ、表6に現れた「ソース」「醤油」を含めて、意味04には料理に関する表現が多く現れていた。そのため、意味04で他動詞の使用が多く見られた要因として意味が関わっていると捉えるべきか、料理の手順の説明という場面が関わっていると捉えるべきかについては、慎重に検討する必要がある。

4. 5. 意味05

意味05は、(17)のような用例における「掛ける」が該当する。意味05では、他動詞の用例のみが確認できたため、他動詞の用例のみを示している。

(17) この男の人は眼鏡をかけていて、えーネクタイをしています

(SES04-D_第一次データ_8880_00900_スペイン語)

表7：意味05におけるコロケーション

	日本語学習者			日本語母語話者		
	掛かる	掛ける	計	掛かる	掛ける	計
眼鏡	0	2	2	0	6	6
腰	0	1	1	0	3	3
その他	0	0	0	0	1	1
計	0	3	3	0	10	10

意味05の「掛かる」は「ひも・縄などが何かに巻き付く」という意味で、「リボンがかかる」「リボンをかける」といった場合に、自他対応が見られる。しかしながら、「眼鏡をかける」や「腰をかける」の場合、「眼鏡がかかる」や「腰がかかる」とは表現できず、他動詞のみが使われる。このように、意味としては自他対応が見られる場合でも、実際のコロケーションに着目すると、対応するものと対応しないものが見られるケースも存在していた。

4. 6. 意味 06

意味 06 は、(18)のような用例における「掛ける」が該当する。意味 06 でも、他動詞の用例のみを示す。

- (18) えーそこで、ケンは梯子をかけて、開いている窓からは家に入ろうと
しました (JJJ18-ST2_第二次データ_920_00050_日本語)

表 8：意味 06 におけるコロケーション

	日本語学習者			日本語母語話者		
	掛かる	掛ける	計	掛かる	掛ける	計
梯子	0	17	19	0	16	16
その他	0	0	0	0	1	1
出現なし	3	6	7	0	1	1
ガヲ誤用	0	2	26	0	0	18
計	3	25	52	0	18	36

意味 06 における自動詞と他動詞の使用傾向は、日本語学習者、日本語母語話者の両方で一致しており、いずれも他動詞の使用が多い傾向にある。しかし、日本語学習者のこの意味での使用は、日本語母語話者と比べて少なく、「梯子を置く」「梯子を使う」のように、他の表現を用いて描写する傾向が見られた。

4. 7. 意味 07

意味 07 は、(19) (20)のような用例における「掛かる：掛ける」が該当する。

- (19) 何も重力がかかってないのでー、だらーんとすると、その分だけし
ん、背が伸びるみたい、です、はい

(JJJ26-I_第一次データ_41500_01880_日本語)

- (20) うんー、自分でもお金をかせい、稼ぎますそして一両親にも負担にか
けな、かけられません

(CCS57-I_第五次データ_52160_03740_中国語 (台湾))

意味 07 は、用例が確認できたため取り上げたものの、表 9 からわかるとおり、用例数が非常に少なく、I-JAS のデータからは量的な比較が困難である。

表9：意味07におけるコロケーション

	日本語学習者			日本語母語話者		
	掛かる	掛ける	計	掛かる	掛ける	計
重力	0	0	0	2	0	2
その他	0	2	2	1	0	1
計	0	2	2	3	0	3

4. 8. 意味09

意味09は、(21) (22)のような用例における「掛かる：掛ける」が該当する。

(21) 家には鍵がかかっていてうちに入れません。

(JJJ55-SW2_第二次データ_140_00010_日本語)

(22) でも、マリは鍵をかけて、寝てしまいました。

(TTH21-SW2_第四次データ_300_00020_タイ語)

表10：意味09におけるコロケーション

	日本語学習者			日本語母語話者		
	掛かる	掛ける	計	掛かる	掛ける	計
鍵	2	8	10	1	0	1
ロック	0	2	2	0	0	0
その他	0	1	1	0	1	1
出現なし	1	0	1	0	0	0
計	3	11	14	1	1	2

意味09は、日本語学習者の用例は複数確認できるが、日本語母語話者の用例が少ないため、意味07同様、量的な比較は困難である。日本語母語話者の「鍵」の使用を確認すると、「鍵がかかっている」という描写ではなく、「鍵を忘れた」という描写が多く見られ、日本語学習者と日本語母語話者の視点の違いが使用傾向に現れたと考えられる。

4. 9. 意味11

意味11は、(23) (24)のような用例における「掛かる：掛ける」が該当する。

(23) んー少ないです、んー、料理が、上手になるために、時間がかかると
 思います、うん (VVN43-RP2_第三次データ_1600_00120_ベトナム語)

(24) うーん、たとえば時間をかけてお金がもらえ、と思います

(CCS25-I_第五次データ_66840_04620_中国語(台湾))

表 11：意味 11 におけるコロケーション

	日本語学習者			日本語母語話者		
	掛かる	掛ける	計	掛かる	掛ける	計
時間	201	6	207	8	2	10
(お)金	45	3	48	9	1	10
その他	4	0	4	1	1	2
出現なし	771	8	779	10	1	11
ガヲ誤用	30	3	33	0	0	0
計	1,051	20	1,071	28	5	33

意味 11 における自動詞と他動詞の使用傾向は、日本語学習者、日本語母語話者の両方で一致しており、いずれも自動詞の使用が多い傾向にある。ただし、この意味における日本語学習者の「掛かる」の使用は日本語母語話者と比べて多く、その中でも出現なしが 771 件と非常に多い。それらのほとんどが、「30 分かかる」「2 週間かかる」のように数量を表したものであった。日本語学習者の時間への言及は特に多い傾向が見られたと言える。

意味 11 が頻出するタスクである「ロールプレイ 1」は、図 2 のような指示のもと行う、ロールプレイタスクである。調査者が店長役を担い、店長とアルバイトの会話が進められる。

《ロールプレイ (1)》

あなたは、日本料理店でアルバイトをしています。接客スタッフとして注文を取ったり、料理を運んだりしています。勤め始めてからずっと接客のしごとをしてきたので、この仕事にもすっかり慣れ、知り合いのお客さまも増えました。今は、一週間に三日アルバイトをしています。しかし、忙しくなってきたので、一週間に二日に変更したいと思っています。そこで、店長に言って三日から二日に変えてもらうように頼んでください。

(準備ができれば始めますから、準備ができれば教えてください。)

図 2：「ロールプレイ 1」のロールカード（迫田・石川・李編 2020：39）

日本語学習者は、このような場面でシフトや仕事内容の変更を依頼する際に、その理由として時間の消費を述べる傾向が強いことがうかがえた。一方、日本語母語話者は、同場面において論文や課題が忙しい、予定がある、調理が苦手といった理由を挙げており、変更の理由を述べるという点では共通してい

るが、母語話者の理由が多様であるのに対し、非母語話者の理由が「時間がかかる」に偏っているという傾向が見られた。

4. 10. 意味 12

意味 12 は、(25) (26) のような用例における「掛かる：掛ける」が該当する。

(25) あのーたまたまその日仕事が終わったら夜一電話がかかって来ましてー
(JJJ37-I_第一次データ_42860_01480_日本語)

(26) 肉屋の、隣に、おじいさん、電話をかけています
(JJC09-D_第一次データ_3370_00300_タイ語)

表 12：意味 12 におけるコロケーション

	日本語学習者			日本語母語話者		
	掛かる	掛ける	計	掛かる	掛ける	計
電話	5	228	233	4	14	18
声	0	107	107	0	24	24
迷惑	1	85	86	1	22	23
話	0	16	16	0	0	0
携帯電話	0	7	7	0	0	0
間違い電話	0	0	0	6	1	7
プレッシャー	0	4	4	0	2	2
心配	0	3	3	0	1	1
面倒	0	2	2	0	0	0
その他	3	7	10	0	2	2
出現なし	2	10	12	4	2	6
ガマ誤用	9	2	11	0	0	0
計	20	471	491	15	68	83

意味 12 は最もコロケーションが多様な意味である。この意味における自動詞と他動詞の使用傾向は、日本語学習者、日本語母語話者の両方で一致しており、いずれも他動詞の使用が多い傾向にある。また、この意味においても、意味としては自他対応が見られるが、実際のコロケーションでは対応しないケースが確認できた。「心配」や「声」がそれに該当する。「心配がかかる」という表現は見られず、「声がかかる」という表現は存在こそするものの、「誘われる」という意味を表し、「声をかける」との意味的な対応は見られない。

5. まとめ

本稿では、『多言語母語の日本語学習者横断コーパス：I-JAS』を用いて、自他対応動詞の一つである「掛かる：掛ける」の日本語学習者の使用傾向を示すため、「掛かる：掛ける」の持つ意味のうち、自他対応の関係にある12の意味に着目して、それぞれのコロケーションについて、日本語母語話者の使用傾向と比較した。

その結果、学習者は特定の意味に偏って使用している傾向が見られ、意味によって、日本語学習者と日本語母語話者で、コロケーションや自他の選択が異なる場合があることを示した。また、日本語学習者に馴染みのない意味である場合や、日本語学習者と日本語母語話者で視点が異なる場合に、「掛かる」「掛ける」以外の表現を用いることがあり、それが使用傾向に影響していることが明らかとなった。ただし、一部の意味においては、現れるタスクに偏りが見られたことから、意味による使用傾向の差ではなく、特定の表現や場面による使用傾向の差である可能性にも留意する必要がある。

以上の考察を通して、日本語学習者における自他対応動詞の使用傾向の一端を明らかにするとともに、学習者特有の意味の偏りや自他の選択に関する傾向を捉えるための具体的な分析手法を提示した。本稿で取り上げた「掛かる」「掛ける」のように、多義性を有する自他対応動詞については、意味による分類を行ってから分析を進めることによって、自他の使用傾向の詳細を見ることが可能となる。本稿は一つの自他対応動詞に限定した試論的なものであるが、今後、他の自他対応動詞への適用を通じて手法の汎用性を検証し、より広範な日本語学習者の自他対応動詞の使用傾向の把握につながることを期待される。また、今回はデータの提示に留まったガワ誤用の傾向についても、他の自他対応動詞のデータも含めて検討する余地が残されている。

参考文献

- 奥津敬一郎(1967)「自動化・他動化および両極化転形—自・他動詞の対応—」
『国語学』70, pp. 46-66, 国語学会.
小泉保・船城道雄・本田晶治・仁田義雄・塚本秀樹編(1989)『日本語基本動詞
用法辞典』大修館書店.

迫田久美子・石川慎一郎・李在鎬（編）（2020）『日本語学習者コーパス I-JAS—入門 研究・教育にどう使うか—』くろしお出版.

新谷知佳(2022)「自他対応をもつ動詞における自動詞と他動詞の使用比率に基づく分析—動詞対の形態的特徴に着目して—」『KLS Selected Papers 4』pp. 73-88, 関西言語学会.

早津恵美子(1987)「対応する他動詞のある自動詞の意味的・統語的特徴」『言語学研究』6, pp. 79-109, 京都大学言語学研究会.

参考資料

『多言語母語の日本語学習者横断コーパス：I-JAS』

（人文学研究科助教）